

INTERNATIONAL UNIVERSITY OF JAPAN
Graduate School of International Relations

Academic Year: 2016/2017

Term: winter

Course	Course code LGC4122	Course title Advanced Japanese 2 (日本語上級 2)	
Name of Instructor	Akihiro Takeuchi		Credit Number: 1
Instructor's contact Information	Office# 249	Office Hours 水・木曜 14 : 00-15 : 00	E-mail: aki@iuj.ac.jp
Class Schedule	火曜日	水曜日	金曜日
Day / Time	8:50-10:20(Rm.101)	8:50-10:20(Rm.101)	8:50-10:20(Rm.101/pc124)

Course Description:

このコースは、中級日本語3を修了またはそれと同程度の日本語レベルの学生向けコースである。日常的なことから一般的専門領域^{りょういき}までのことでコミュニケーションやインターアクションができるようになることを目指す。

日本語上級 I-III の目標

1. 日常的なことから一般的専門領域までの記事の読解、ニュースの聴解ができて、説明や分析ができ、意見を述べて、議論できる。
2. 改まった場面（ビジネス、各種面接、教師とのインターアクションなど）で適切なスタイルでインターアクションができる。
3. 以下の客観的基準をクリアーする：
Oral Proficiency Interview Test(OPI) : Advanced mid/high
日本語能力試験 (JLPT) : N2

日本語上級 1 内容

全体

- ・一般的専門領域の話題について、読解・視聴し、要約、説明、視点を変えて分析できる。
- ・語彙・表現を文脈、共起表現に関係づけて習得する。

話す

- ・小さい発表を行い、質疑応答ができるようになる。
- ・改まった場面にふさわしい、話し方ができるようになる。

聞く

- ・ニュース記事を視聴して、語彙・表現を学びながら、聴解力を向上させる。
- ・発表を理解して、質問につなげる。

読む

- ・語彙・表現の文脈での使い方に留意して、読解を行う。
- ・スキヤニングとスキミングの練習。

<p>書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改まったメールの書き方を練習する。 ・資料をもとに発表の原稿を書く。 	
<p>Career Relevance: 日系企業が外国人に求める必要最低条件の N2～N1 レベルの練習を行う。 また、ビジネス場面でのインターアクションの練習を取り入れる。</p>	
<p>授業の形態: 講義、ミニスピーチ、ペアまたはグループでの練習と話し合い、ロールプレイ、各種 e-learning、日本人ビジターとの会話練習など。</p>	
<p>成績: 中間筆記試験 20% 期末筆記試験 20% 期末発表 10% 中間・期末会話試験 20% (各 10%ずつ) クイズ 15% 宿題 10% 授業への参加・進歩 5%</p>	
<p>試験: 中間筆記試験 11月2日 中間会話試験 第6～7週目 期末発表 第10週目 期末筆記試験と会話試験 第11週</p>	
<p>履修要件: 日本語中級Ⅲ修了と同程度の日本語力が必要。秋学期は履修希望者は例外なくクオリファイイングテストを受けて合格する必要がある。</p>	
<p>教科書:</p>	<p>「学ぼう！日本語 中上級」 テレビ、ラジオのニュースや番組、聴解、読解の教材など</p>
<p>参考書、便利なサイト</p>	<p>『日本語文型辞典』くろしお出版 『日本語コロケーション辞典』 『どんな時どう使う日本語表現文型辞典』アルク 日本語学習ポータルサイト NIHONGO e な http://nihongo-e-na.com/jpn/</p>
<p>注意 (日本語の「ム」の規則です)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. クイズと発表のメイクアップはしない。 2. 中間筆記と期末筆記試験は理由があればメイクアップするが、得点の80%が付与される。 3. クイズはクラス開始 10 分間に行う。 4. 30 分以上授業に遅れて来たら「遅刻」とする。30 分以上授業を早く出たら「早退」とする。「遅刻」と「早退」は、2回すると、1回の欠席となる。 5. 欠席がクラスの回数の3分の1を超過したら、期末筆記試験と期末会話試験と発表ができなくなる。 6. 剽窃(ひょうせつ)とカンニングは言語教育研究センター長に報告される。